

第54回 令和5年度「子どもと知事のわくわく交流会」を開催

日 時：令和5年7月29日（土）

会 場：国立若狭湾青少年自然の家

参加者：65名

県内のひとり親家庭の子どもたちが、知事とふれあい、伝統工芸の体験や自然体験を通して、夢と希望をもち、福井を愛する子どもの育成を目指して開催しました。

開会式 司会 菊野母子部長

主催者あいさつ（平等会長）

歓迎の言葉（松崎小浜市長）

激励のこぼし・記念品贈呈

（国際ソロプチミスト福井）

来賓紹介（服部福井県健康福祉部長、廣部児童家庭課長）



海の漂着物を見つけ・漂着物について学ぶ

「ビーチコーミング」体験





ランチバイキング

若狭めのう工作 杉本知事も真剣



当日は、猛暑でしたが、子どもたちは元気いっぱいでした。
子どもたちは、「知事さんと一緒にご飯を食べ、写真も撮れてうれしかった。」「海がとてもきれいだった。」「砂浜できれいなシーグラスを見つけてうれしかった。」「若狭めのうでいい作品ができた。」などと作文に書いており、夏休みの貴重な体験ができたと思います。
最後までご協力いただきました福井県健康福祉部児童家庭課の皆様、小浜市子ども未来課の職員の皆様、国際ソロプチミスト福井の皆様、小浜市母子会、付添で来ていただいた保護者の方、各地区役員様には暑い中誠にありがとうございました。

知事と児童ら交流 若狭めのうで工作

小浜、県母子寡婦連

県内のひとり親家庭の子どもたちと杉本連治知事の交流会が7月29日、小浜市の国立若狭湾青少年自然の家で開かれた。写真。小中学生約20人が参加し、若狭めのうを使った工作に挑戦した。

県母子寡婦福祉連合会が毎年開いている。

子どもたちは4班に分かれ、オリジナル壁飾り作りに取り組んだ。クマやウサギ、花火など各自の好きなデザインで色紙に下絵を描き、さまざまな色の若狭めのうのかげらをポンドで貼り付けて仕上げた。

杉本知事は祭りのうちわ

をデザイン。イメージに合う色を探しながら、同じ班の子どもに「これかわいいよ」とかげらを手渡す場面もあった。

完成後には、ほかの班の子どもとも作品を持って



記念撮影した。杉本知事は「夏休みは長いと思ってもすぐ終わる。勉強を一生懸命頑張って、楽しくすくすく成長してほしい」と呼びかけた。

(田中奈々子)